# 令和８年度第２回設楽町総合計画／まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会

## 会議録

日時：令和８年 10 月 16 日（金）午後７時から午後８時 45 分まで
場所：設楽町役場議場

出席者： 審議会委員（出席１４名、◎は会長）
金田治久 委員（愛知県淡水養殖漁業共同組合）
関谷健 委員（設楽町商工会長）
伊藤昭広 委員（設楽町教育委員）
峯田絵美子 委員（愛知県立田口高等学校 校長）
金田季也 委員（設楽町小中学校長会 代表）
伊藤美香 委員（設楽町キラリンとーぷ 所長）
園原明子 委員（町民公募、子育て）
小西勇基 委員（町民公募、子育て）
白井靖明 委員（豊川信用金庫 新城中央支店長）
清水貴裕 委員（株式会社あかり）
高松哲也 委員（一般社団法人設楽町観光協会　事務局長）
◎渡辺哲広 委員（津具どっとこい）
黒岩祐治 委員（まるごと名倉 代表）
加藤沙弥 委員（株式会社みらいび）
欠席委員（5 名）
熊谷浩一 委員（愛知東農業協同組合 総合企画部長）
伊藤隆啓 委員（北設楽郡医師会　伊藤内科）
佐々木 公仁 委員（設楽町森林組合　参事）
近藤友樹 委員（THE TAGUCHI CULTURE CLUB 代表）
松井祥悟 委員（matchbox 代表）

事務局：企画ダム対策課長ほか課員３名
受託者：名古屋大学５名
その他：設楽町役場各課職員１０名
奥三河デザイン編集部 １名

・審議会の成立について
出席委員 14 名で本審議会が成立した

１．会長あいさつ

議事の説明：

■ 設楽町のこれからを考える学校ワークショップについて

令和 8 年 10 月 28 日(水)に設楽中学校で開催予定の学校ワークショップについて、企画内容や準備状況の報告を受ける。

■ 設楽町第 3 次総合計画／第 3 期総合戦略概要版の作成について

前回審議会でいただいた意見を踏まえ、作成を進めている総合計画概要版について、現在の検討状況や今後の予定の報告を受ける。

■ 設楽町第 3 次総合計画／第 3 期総合戦略計画案について

これまでの住民会議、住民フォーラム、審議会等での意見を踏まえて取りまとめた計画案について、前回に引き続き審議いただく。今後は議会への説明やパブリックコメントを経て最終的な計画案を取りまとめることとなる。

本日は、文章表現などの細かな部分だけでなく、計画全体の構成や基本目標、行動指針等の考え方が設楽町の将来を見据えたものとなっているかという視点から、ご意見をいただきたい。また、今後の策定スケジュールや計画策定後の進行管理についても協議いただく。

総合計画は、策定すること自体が目的ではなく、住民、地域、事業者、行政が目指す姿を共有し、それぞれの立場でまちづくりを進めていくための指針となるものである。12 月に予定しているパブリックコメント前の最後の審議会となるため、本日の意見については、できる限り修正や反映の方向性を確認したい。より分かりやすく、多くの住民に共感いただける計画となるよう、建設的なご意見、ご提案をいただきたい。

２．議事

(1) 設楽町のこれからを考える学校ワークショップについて

【資料１】「設楽町のこれからを考える学校ワークショップ」企画案に基づき事務局及び受託者から説明。

＜要約＞

令和 8 年 10 月 28 日（水）に、設楽中学校の全校生徒（1～3 年生）を対象として、「設楽町のこれからを考える学校ワークショップ」を開催する予定である。

本ワークショップは、総合計画に掲げる今後 10 年間の取組について若い世代に関心を持ってもらうとともに、自分自身と町との関わり方について考える機会をつくることを目的としている。

当日は、初めに総合計画の策定経過や人口ビジョン等について全体説明を行う。その後、6 つの基本目標ごとにブースを設け、生徒が関心のあるブースに参加し、役場職員から目指すまちの姿や施策等について説明を受け、意見交換を行う。

また、当日はワークシートに生徒一人一人の意見やアイデアを記入してもらい、後日回収・整理することとしている。

事前に、ワークシート及び6つの基本目標に関する資料を配布し、生徒自身の10年後の姿や町との関わり方について考えてもらう。

中学生から意見やアイデアを聞くことに加え、町が今後どのような取組を進めていくのかを知り、自分自身がどのように関わっていくのかを考えるきっかけとしたい。

○　質疑・意見

（委員）

中学生には、現在設楽町が抱える問題や課題について、事前に資料等を配布する予定はあるのか。

自分たちの町にどのような問題があり、このまま何もしなければどうなってしまうのかを知っているかどうかで、ワークショップに参加する際の意識が変わってくると思う。

あらかじめ町の現状や課題を知った上で、意見やアイデアを出してもらうことが望ましいのではないか。

（受託者）

事前に配布する資料は、6つの基本目標と目指す姿、施策等に関するものを予定しており、人口ビジョン等については当日の全体説明で紹介する予定であった。

いただいたご意見を踏まえ、町の現状や課題についても事前に資料を配布できるか、学校と相談・確認した上で準備を進めたい。

（委員）

今回のワークショップは中学生を対象としているが、これまでの審議会では高校生や田口高校についても議論されてきた。高校生も対象に含めた方がよいと思うが、今回、中学生に絞った理由はあるのか。

（事務局）

田口高校にもワークショップ開催について相談したが、授業や学校行事等との日程調整が難しく、今回の計画策定スケジュールの中で実施することは困難と判断した。そのため、まずは設楽中学校での開催を先行することとした。

（委員）

こうした機会は大変重要と考えている。今後もぜひ田口高校に声をかけていただきたい。高校としても、実現できるよう協力していきたい。

（委員）
事前に配布する資料について、中学生には難しい言葉が多く使われていると感じた。
今回は中学１年生も対象となるが、公民的な分野を学ぶのは中学３年生であり、学習段階を考えても、資料を読んで内容を理解することは難しいのではないか。専門用語の説明を加えるなど、中学生にも分かりやすい内容とする工夫が必要だと思う。

（事務局）
中学生にとってなじみのある言葉で説明する必要があると考えている。いただいたご意見を参考に、事前配布資料や当日の掲示物について、表現の見直しや用語の解説を加えるなどの修正を行いたい。

（委員）
子どもたちが関心を持って前向きにワークショップに取り組める手立てがあるとよいと思う。

（委員）
文字だけの情報では内容が伝わりにくいため、写真やイラストなど、視覚的に興味が持てる表現を取り入れるとよいのではないか。
また、子どもたちの意見が実際の取組につながった他地域の事例などを紹介することで、自分たちもこうしていきたいというイメージが湧きやすくなると思う。せっかくの機会なので、子どもたちが自ら考え、意見を発信できる機会になると良いと思う。

（2） 設楽町第３次総合計画／第３期総合戦略概要版の作成について
【資料 2-1】設楽町第３次総合計画／第３期総合戦略概要版の作成について
【資料 2-2】設楽町第３次総合計画／第３期総合戦略 概要版作成（台割案）
上記資料及び当日配布資料に基づき、事務局及び奥三河地域デザイン編集部から説明。
＜要約＞
総合計画概要版は、住民に計画の内容を分かりやすく伝え、身近に感じてもらうことを目的として作成する。
単に計画の内容を簡潔にまとめるだけではなく、住民会議や住民フォーラム等で取り上げた地域の活動や、町内で活動する人々の暮らしと計画との関係を示し、これからのまちづくりについて考えるきっかけとなるものを目指す。
制作に当たっては、次の５点を重視している。
分かりやすさ：幅広い世代に伝わる表現とする。
暮らしとのつながり：計画の取組と日々の暮らし、地域活動との関係を示す。
親しみやすさ：幅広い世代が手に取りたくなるものとする。

具体的な事例の紹介：地域の活動や人物を紹介し、まちづくりのイメージにつなげる。
まちづくりへの関心：住民が地域やまちづくりについて考えるきっかけとする。

計画本編は、町が今後 10 年間で目指す方向や施策を示すものである。一方、概要版では、計画の内容を住民の暮らしや地域の取組と結びつけて紹介し、計画への関心や理解につなげていく。

現在、表紙・裏表紙を含めて 12 ページ程度の構成を検討しており、主な内容は次のとおりである。

冒頭：総合計画の目的、基本的な考え方、6 つの基本目標の紹介
3 ページ：設楽町が目指す未来の姿をイメージで紹介
4〜9 ページ：6 つの基本目標と関連する地域活動、団体等へのインタビューや事例紹介
10〜11 ページ：町内でさまざまな活動をしている人々の写真やコメントの掲載

取材対象としては、これまでの住民会議や住民フォーラムに参加した団体、計画案に掲載している地域活動の関係者などを想定している。

奥三河地域デザイン編集部からは、「設える(しつらえる)と暮らしが楽しくなる」という企画コンセプトが示された。

町名の「設楽」と「設える(しつらえる)」という言葉を重ね、住民自身が町の暮らしや活動をつくり上げていくことを表現するものとしている。

また、全戸配布に加え、店舗等の人が集まる場所で掲示することも想定し、二つ折りのタブロイド判に近い形式を検討している。

今後は 11 月から具体的な制作を進め、令和 9 年 2 月の第 3 回審議会で原稿案を確認いただき、3 月に発行・各世帯へ配布する予定である。

○　質疑・意見

（委員）

概要版について、とてもよい企画だと思う。せっかく中学生を対象としたワークショップを開催するのであれば、参加した生徒の声も取り入れてはどうか。

住民に計画を分かりやすく伝え、身近に感じてもらうことが目的であれば、これからの町を担っていく子どもたちの声を掲載することは重要だと思うので、検討していただきたい。

（奥三河地域デザイン編集部）

10〜11 ページについては、さまざまな方の声を掲載したいと考えている。今回の学校ワークショップの内容を共有していただき、中学生の声の掲載についても検討したい。

（委員）

幅広い世代を対象とするのであれば、現在の見本の文字の大きさで高齢者が読むことが

できるのかという点が気になる。
　また、町内のさまざまな場所に掲示するという考え方はよいと思うが、各家庭で保管するという点についてはどのように考えているか。

（奥三河地域デザイン編集部）
　本日お示ししたものはあくまでイメージであり、実際の印刷物では文字サイズを大きくする予定である。高齢者にも読んでいただけるよう、文字の大きさや読みやすさに配慮して制作したい。
　家庭で保管していただくこともよいと思うが、概要版は計画本編への理解を深めるきっかけとなることを重視している。
　そのため、紙を厚くするなど保管性を重視するよりも、町内のさまざまな場所に掲示し、住民の目に触れる機会をつくることを意図して、タブロイド判に近い形式を検討している。

（事務局）
　企画や紙面構成は今後具体化していくため、いただいたご意見を踏まえながら、調整を進めていきたい。

（3） 設楽町第３次総合計画／第３期総合戦略 計画案について
＜要約＞
【資料３－1】審議会等の意見に対する対応一覧
【資料３－2】計画の全体構成
【資料３－3】基本計画の見方
【資料３－4】設楽町第３次総合計画／第３期総合戦略 計画案
　上記資料に基づき、受託者及び事務局から説明。
＜要約＞
　前回の審議会及びその後の意見照会でいただいた意見について、【資料 3-1】に対応状況を整理し、主に次の修正を行った。
計画の構成・役割分担：計画全体の構成や各主体の役割が分かりにくいという意見を踏まえ、「計画の全体構成」「基本計画の見方」を追加し、住民、地域団体、事業者、行政等がそれぞれ役割を果たして取り組む計画であることを説明した。
将来像・専門用語：将来像にあった否定的な印象を与える表現を削除するとともに、専門用語等については巻末に用語集を設ける予定としている。
基本目標１・地域活動：「稼げる地域づくり」「補助金に頼らない自立した地域運営」という表現を見直し、地域住民が主体となる活動を行政が支援し、協働による持続可能な地域づくりを推進する表現に改めた。

基本目標 2・農林業振興：新規就農・新規就業だけでなく、既存の農林業者や事業者の経営継続、規模拡大、生産性向上等への支援も含む表現に改めた。
基本目標 2・田口高校：スマート林業、環境教育、防災教育など、田口高校の実際の取組を踏まえた記載に修正し、資格取得支援についても追加した。
基本目標 3・中高生の地域参加：中高生が町内イベント等で発表するだけでなく、企画段階から地域活動に参画する仕組みづくりを記載した。
基本目標 5・森林整備：森林所有者、森林組合等の林業事業体をはじめ、地域の関係者と連携して森林整備を進めることを明記した。
基本目標 5・アウトドア自然体験：特定の競技や人材に限定せず、森や水辺を生かした多様なアウトドア・自然体験活動や、それを担う人材育成を含む幅広い表現に改めた。
基本目標 6・空き家、移住定住：空き家バンクへの登録だけでなく、総合的な支援について現行案で記載されているため、修正せず現行の内容とした。
総合戦略の一部指標等：いただいた意見について検討した結果、資料に記載した理由から現行案を維持することとした。

② 計画案全体の修正・調整について

前回審議会ではテキスト形式で計画案を示したが、今回は完成を見据えてデザインを反映した計画案を作成した。

また、「これまでの歩みと振り返り」について、令和 6 年度実績に基づいていた内容を令和 7 年度実績に更新した。

今後は、表紙や小扉のデザイン、文字サイズ、巻末資料等を調整するとともに、誤字・脱字等の確認を進める。

国及び県の戦略との関連についても、国の戦略の改定を踏まえた記載に修正する予定である。

さらに、各基本目標に成果指標を追加しており、担当課で確認した現状値や設定した目標値を掲載している。

③ 人口ビジョンについて

人口ビジョンについて、これまでの取組の評価と今後の目標設定の考え方について説明があった。

これまでの 10 年間では、空き家バンクを活用した移住促進や子育て世帯の移住受入れについて一定の成果があった一方、小学生人口の推移を見ると、移住者がいない場合の推計よりも減少が進んでいる地域がある。この背景として、子育て世代の町外への転出など、社会減が想定よりも進んだ可能性が考えられる。

今後も移住者を受け入れる取組は必要であるが、それと併せて、設楽町で生まれ育った若者が町外へ出ていかないことや、町外へ出た若者が戻ってこられるまちづくりが重要で

ある。

地区別では、津具地区において地域の継続的な活動による成果が見られる一方、他地区では活動の継続が難しかったことから、今後は住民の自発的なまちづくり活動を後押しすることが重要と考えられる。

これまでの実績や人口推計を踏まえ、子どもの数の減少を抑えるために必要な移住受入れを目標に設定する考え方が示された。

○　質疑・意見

（委員）

今回、計画案に成果指標が追加されたが、KPI として適切なのか、改めて検討する必要があるのではないか。

例えば、基本目標 1 の「ふるさと住民登録制度」は、制度そのものがまだ十分に認知されていないのではないか。

また、基本目標 2 の「担い手への農地集積面積」については、記載されている数値や単位が正しいのか確認が必要だと思う。基本目標 6 の町道や林道の整備延長についても、既に実施が予定されている工事を進めれば達成できるような数字ではないか。

道路を何メートル整備したという数字だけでは、住民にとって何がよくなったのか分かりにくいと思う。

成果指標が施策の成果を適切に示すものとなっているか、住民にとって分かりやすい指標となっているかという視点から、全体を精査する必要があるのではないか。

（事務局）

制度そのものや指標の内容が分かりにくいというご意見については、用語の解説や説明を加える必要があると考えている。

また、数値や単位の正確性、成果指標としての適切性、住民にとって分かりやすい内容となっているかについても、いただいたご意見を踏まえ、各担当課の意見を確認しながら改めて整理したい。

（委員）

計画案には田口高校や中高生に関する記載が多くあるため、田口高校でもワークショップを実施していただきたい。

設楽中学校から田口高校への進学の流れをつくることも重要であり、高校に進んだ生徒が町についてどのような意見を持っているのかを聞くことは参考になると思う。

今回の中学校ワークショップの資料や方法を高校でも活用できるのではないか。また、高校生の意見についても、概要版への掲載を検討していただきたい。

（事務局）
今年度はスケジュール等を踏まえ、設楽中学校での開催を先行することとした。
計画策定後も、住民や若い世代と計画を推進し、進捗状況を共有する機会を設けていきたいと考えている。
中学生や高校生とどのような接点を持つかについては、まだ具体的に定まっていないが、引き続き関わる機会をつくっていきたい。ワークショップについても、実現可能性を整理しながら検討していきたい。

（委員）
高校では 4 月以降になると年間の授業や行事の計画が決まってしまうため、2 月頃など、早い段階で翌年度の取組について相談していただければ、対応を検討できると思う。
田口高校でも地域課題の解決に向けた学習や発表を行っている。高校生は自分自身が地域を動かしていく立場になるという意識が芽生えてくる年代でもあり、こうした取組は効果的と考える。
また、田口高校には設楽町以外から通学する生徒もいるため、町外から見た設楽町という、中学生とは異なる視点からの意見も得られると思う。今後、学校との連携を進めていただきたい。

（事務局）
実施時期や内容について、具体的な相談をさせていただきたい。

（委員）
概要版について、計画本編で使われている言葉や内容と整合しているのか。また、概要版と計画本編の関係について確認したい。

（奥三河デザイン編集部）
概要版は、計画本編を知っていただき、関心を持ってもらうためのものとして考えている。「設える(しつらえる)と暮らしが楽しくなる」という言葉は、概要版独自の企画コンセプトであり、計画本編の内容を変更するものではない。
掲載する内容は総合計画に沿ったものとしながら、「楽しく集まる」「楽しく働く」など、住民にとって身近な言葉に置き換えて紹介する考えである
普段、行政の計画に触れる機会が少ない方にも、概要版を通じて計画への関心を持っていただき、計画本編への理解につなげていきたい。

（委員）
【資料 3-4】の 13 ページに記載されている観光入込客数について、実際の公表データと

差があるように思う。
　令和7年度の実績について、観光入込客数は約64万人と把握している。データは公表されているので、確認・調整をお願いしたい。

（産業課）
　計画案に記載されている実績値については、観光施設の利用実績等から算出した数値と思われる。数値の根拠を確認し、必要な修正を検討したい。

（委員）
　基本目標3の35ページに記載されている住民・行政の役割について、行政の役割は多く記載されている一方、住民・団体の役割が3項目しかなく、バランスが悪いように感じる。37ページについても同様に、住民・団体の役割が少ないのではないかと感じた。
　また、団体名の表記に誤りがあるため、修正をお願いしたい。

（4） 設楽町第3次総合計画／第3期総合戦略 策定スケジュールについて明。
【資料4】設楽町第3次総合計画／第3期総合戦略 策定スケジュールに基づき事務局から説明。
＜要約＞
　本日の第2回審議会でいただいた意見や、10月28日(水)に開催予定のワークショップの結果等を踏まえ、計画案の修正及び庁内調整を進める。
　11月には議会に対して、これまでの策定状況や計画案について説明する予定である。
　12月には約1か月間のパブリックコメントを実施し、広く住民から意見を募集する。
　その後、いただいた意見を踏まえて計画案の修正や庁内調整を行い、令和9年2月上旬頃に第3回審議会を開催する。
　第3回審議会では、パブリックコメントの結果や計画案の修正内容等を説明し、最終案の審議を予定している。
　令和9年3月の議会での議決に向けて、引き続き策定作業を進める。
○ 質疑・意見
　本件について、質疑・意見はなかった。

（5） 設楽町第3次総合計画／第3期総合戦略 進行管理について
【資料5】設楽町第3次総合計画／第3期総合戦略 進行管理の全体フロー（案）に基づき事務局から説明。
＜要約＞
　令和9年度から始まる第3次総合計画について、計画策定時に住民会議や住民フォーラムを通じて住民と一緒に計画をつくり上げてきた経緯を踏まえ、策定後の進行管理につい

ても住民、地域団体、事業者等と一緒に進めていきたいと考えている。
現在の第2次総合計画でも、各課が実績や進捗状況を確認し、事務局が集約・整理した上で、取組の改善や翌年度の事業に反映するという進行管理を実施している。
第3次総合計画では、この流れに住民会議を加え、行政の取組状況や地域での活動等を住民と共有し、意見交換を行う場を継続的に設けることを検討している。
住民会議では、成果指標の数値だけではなく、地域の中で起きた新たな動きや活動の変化など、数値に表れにくい内容についても共有し、今後の取組につなげていきたい。
また、計画期間10年間の中間となる5年目には、毎年の進捗状況や住民会議の開催状況等を踏まえて審議会を開催し、必要に応じて計画の見直しを行う予定である。
進行管理の仕組みについては、計画本編にも文章だけでなく図を掲載し、住民と行政が一緒に計画を推進していく流れを分かりやすく示したいと考えている。
住民会議の具体的な運営方法や、住民と行政の役割分担については、引き続き検討していく。

○　質疑・意見
（委員）
進行管理の全体フローについて、毎年進捗状況を確認・整理するとのことだが、その結果を住民に資料として配布する予定はあるのか。
個人的には、各戸配布などにより、住民にも現在の計画の進捗状況を知ってもらうことが大事だと思うので、検討していただきたい。

（事務局）
住民会議の具体的な進行方法や資料の内容については、まだ決まっていない。
ただし、行政の取組状況や地域で起きている変化については、口頭だけでなく資料等で示す必要があると考えており、今後の会議運営と併せて検討したい。
また、成果指標には毎年把握できるものと、アンケート等を実施しなければ把握できないものがあるため、毎年確認できる範囲で進捗状況を示していくことになると考えている。

（委員）
毎年すべての指標の数値がそろわなくてもよいと思うが、住民に進捗状況が伝わり、計画が進んでいることを少しでも実感できるような仕組みにしていただきたい。

（受託者）
令和7年度からの住民会議については、設楽町と受託者が中心となって企画・運営してきた。

今後は、住民自身が住民会議を企画・運営できるようになるとよいと考えている。
住民と行政が協働してまちづくりを進める計画であるため、会議についても行政が主催するだけでなく、住民と行政が協力して運営する形が望ましいと思う。
町内にはファシリテーションや会議の企画・運営を担うことのできる人材や団体も育ってきているため、そうした力を生かした住民会議のあり方も検討していただきたい。
必要に応じて、側面的な支援を行っていきたい。

（委員）
5年目に中間見直しを行うとのことだが、現在の審議会委員も、その際に引き続き関わることになるのか。

（事務局）
今回の計画は住民と一緒に作り上げてきたものであり、審議会委員の皆様にもその策定経過を理解いただきながら、さまざまなご協力をいただいてきた。
審議会委員の任期は2年間であり、事務手続き上の取扱いについてはまだ整理できていないが、可能であれば、引き続き関わっていただきたいと考えている。

（委員）
成果指標について、毎年アンケートを取らなければ把握できない指標があってもよいと思う。ただし、指標は何らかの地域課題があり、それが改善・解決されているかを確認するために設定するべきではないか。
例えば、農業の担い手への農地集積面積は、離農した人の農地を誰が引き受けるかという結果として増える場合もあり、その数値だけでは農業の課題が改善しているかは分かりにくい。それよりも、農業経営の構造的な課題や鳥獣被害対策など、農家が実際に困っている問題について、どの程度改善しているかを把握できる指標が必要ではないか。
現在そのようなデータを把握していないのであれば、今回の計画策定を機に、各課での指標やデータの把握方法を見直すことも考えてはどうか。

（事務局）
5年目に計画の中間見直しを予定しているため、その時点で必要に応じて指標の変更や追加を行うことも可能と考えている。
現時点では農地集積面積を指標としているが、今後、別の指標が必要ということになれば、中間見直し時に反映することも考えられる。

（委員）
学校教育に関する保護者説明会を実施しているが、保護者から、資料が難しすぎて読む

気になれないという意見を聞いている。総合計画本編はある程度硬い表現でもよいと思うが、概要版については、思い切って柔らかい表現としてもよいのではないか。
　各家庭に配布するものなので、小学生から高齢者までが手に取って読みたくなるように、イラストや漫画なども取り入れた、親しみやすいものにしていただきたい。

（奥三河地域デザイン編集部）
　住民が見たくなること、総合計画に興味を持ってもらうことを大切にし、言葉の使い方や見せ方などを工夫しながら制作を進めたい。

（委員）
　人口ビジョンについて、地域としても子育て世帯の移住を受け入れられるよう、引き続き活動していきたいと考えている。
　一方、町外から新たな住民を受け入れることだけでなく、設楽町で生まれ育った若者が町外へ出ていかないことや、町外に出た若者が戻ってこられる環境づくりも重要だと思う。
　地元へ戻りたいと考える若者を受け入れられるよう、行政としても支援や対応を考えていただきたい。

○　閉会
　会長から、今回の審議会でいただいた意見等を踏まえ、引き続き計画案の策定を進めること、また、計画策定後も住民会議等を継続していくため、各委員及び関係団体に協力をお願いしたい旨の発言があった。
　事務局から、次回の第３回審議会は令和９年２月頃に開催予定となっており、パブリックコメントの結果報告及び総合計画・総合戦略の最終案の審議を予定していることを案内し、閉会した。